



シソの袋培地栽培技術を確立

開発の背景・ニーズ

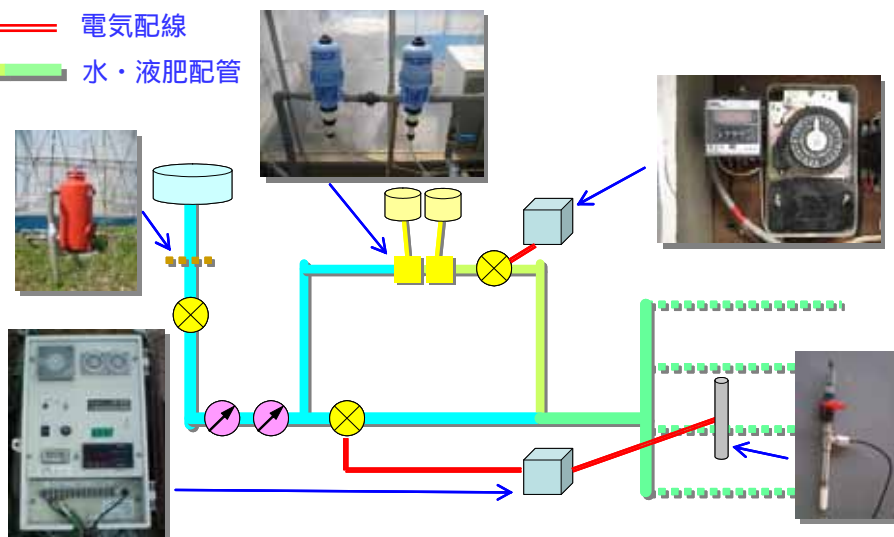
シソは栽培面積80ha、産出額83億円と全国1位のシェアを誇るつまもの野菜です。しかし近年、そのシェアは減少傾向にあり、そのひとつの原因として、土壌病害や斑点病などの被害の増大が挙げられます。そのため、病虫害の被害が軽減され、かつ、農薬の使用を減らすことが可能な栽培技術の開発が望まれていました。

成果の内容

専用培養土を詰めた30Lの袋（袋培地）を用い、地面から隔離して栽培する方法です。地面と袋の設置面に下敷シート及び隔離板（発泡スチロール等）を配置し、土壌病虫害の侵入を防ぎます。1袋に6株を定植し、施肥とかん水は「点滴かん水方式」で1株ごとに行います。施肥は、生育状況や季節に応じ、専用の液肥を用い、1日に必要な量を朝と昼の2回に分けて施す「窒素日施用方式」で行います。かん水は、専用の土壤水分センサと制御器を用いた「少量多頻度かん水方式」で行います。



電気配線
水・液肥配管



水源
フィルター
減圧弁
圧力計
水量計
かん水用電磁弁
かん水制御器
液肥混入器
液肥タンク
施肥用电磁弁
施肥制御器
水分センサ
点滴チューブ

愛知県農業への貢献

省力・快適に栽培の準備ができる上、連作障害の回避及び生育に適した水分や肥料の管理が精密に行え、高品質のシソを安定して生産できます。この技術の普及により、安全・安心なシソを周年安定供給することが可能となります。